

## 8 地域リハビリテーションについて

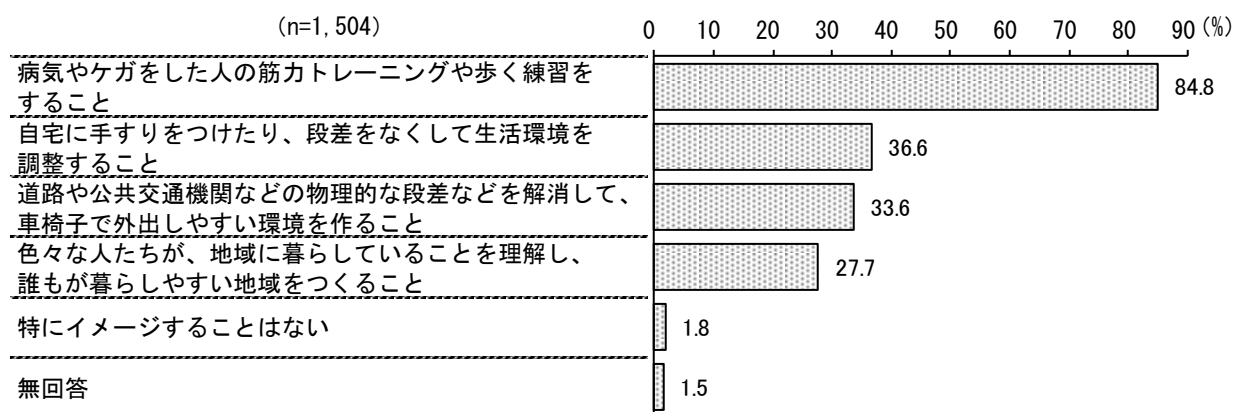
### （１）「リハビリテーション」の言葉のイメージ

◇「病気やケガをした人の筋力トレーニングや歩く練習をすること」が８割台半ば

問31 「リハビリテーション」を広く捉えると、以下の１～４を含んでいるといわれています。あなたが今までイメージしていた「リハビリテーション」をすべて選んでください。（○はいくつでも）

※ １～４とは、「病気やケガをした人の筋力トレーニングや歩く練習をすること」「自宅に手すりをつけたり、段差をなくして生活環境を調整すること」「道路や公共交通機関などの物理的な段差などを解消して、車椅子で外出しやすい環境を作ること」「色々な人たちが、地域に暮らしていることを理解し、誰もが暮らしやすい地域をつくること」を指す。

<図表 8－１> 「リハビリテーション」の言葉のイメージ（複数回答）



「リハビリテーション」の言葉のイメージを聞いたところ、「病気やケガをした人の筋力トレーニングや歩く練習をすること」（84.8%）が８割台半ばで最も高く、以下、「自宅に手すりをつけたり、段差をなくして生活環境を調整すること」（36.6%）、「道路や公共交通機関などの物理的な段差などを解消して、車椅子で外出しやすい環境を作ること」（33.6%）、「色々な人たちが、地域に暮らしていることを理解し、誰もが暮らしやすい地域をつくること」（27.7%）が続く。（図表 8－１）

#### 【地域別】

地域別で大きな傾向の違いはみられない。（図表 8－２）

#### 【性・年代別】

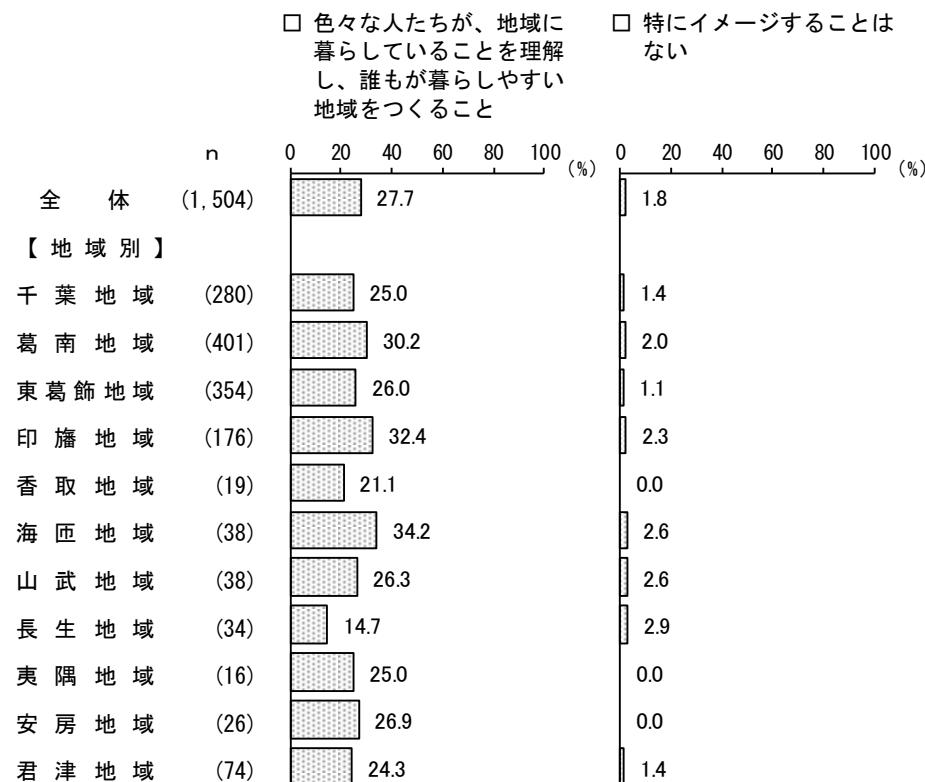
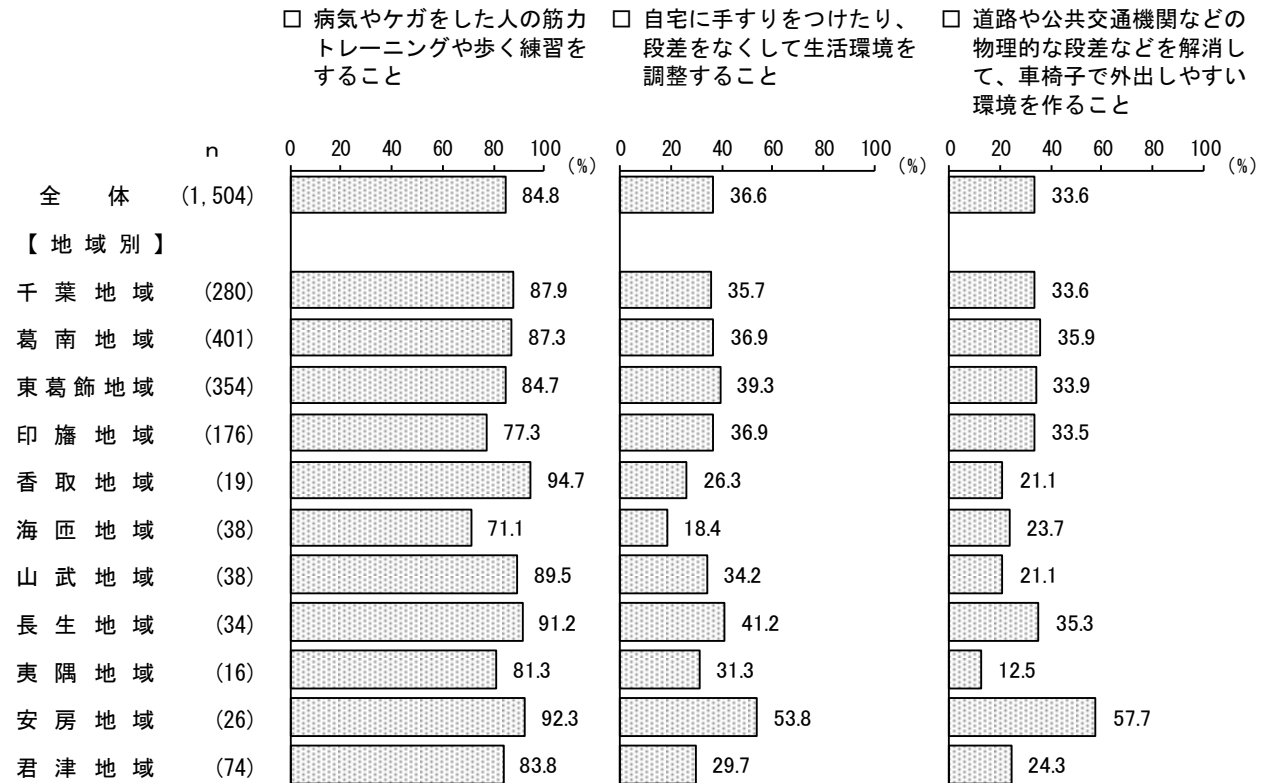
性・年代別にみると、「病気やケガをした人の筋力トレーニングや歩く練習をすること」は、女性30代（94.8%）、男性50代（94.6%）、男性40代（94.1%）、女性50代（93.8%）が９割台半ば、女性40代（92.9%）が９割を超えて高くなっている。

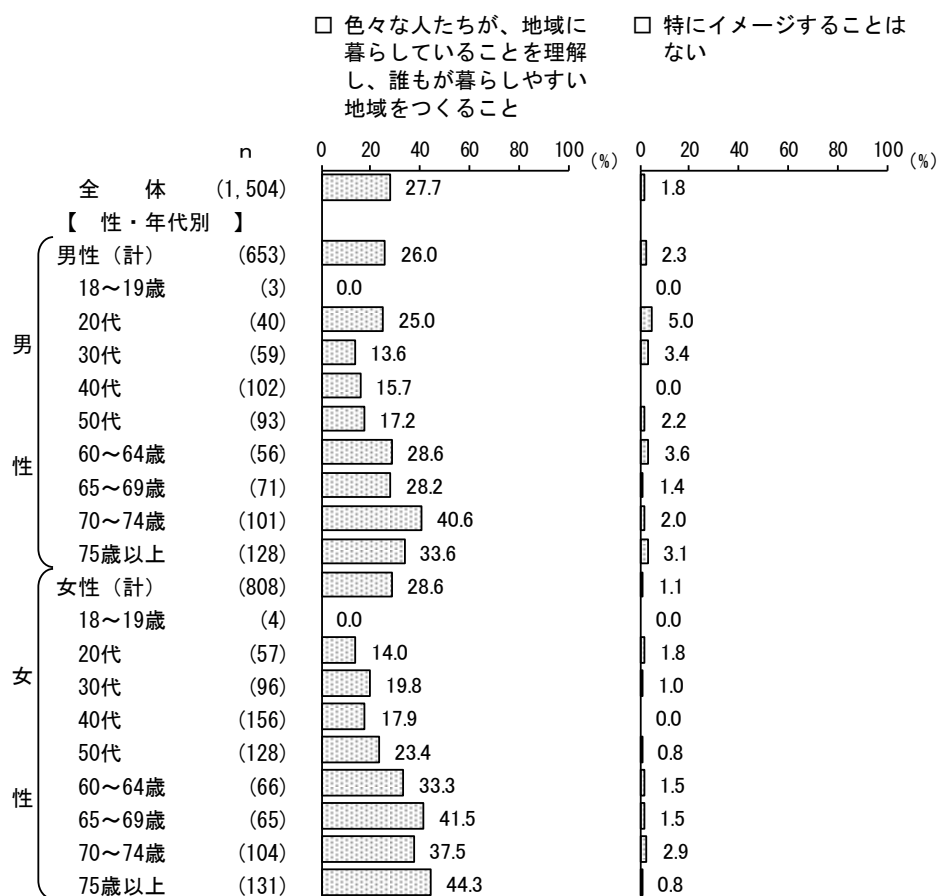
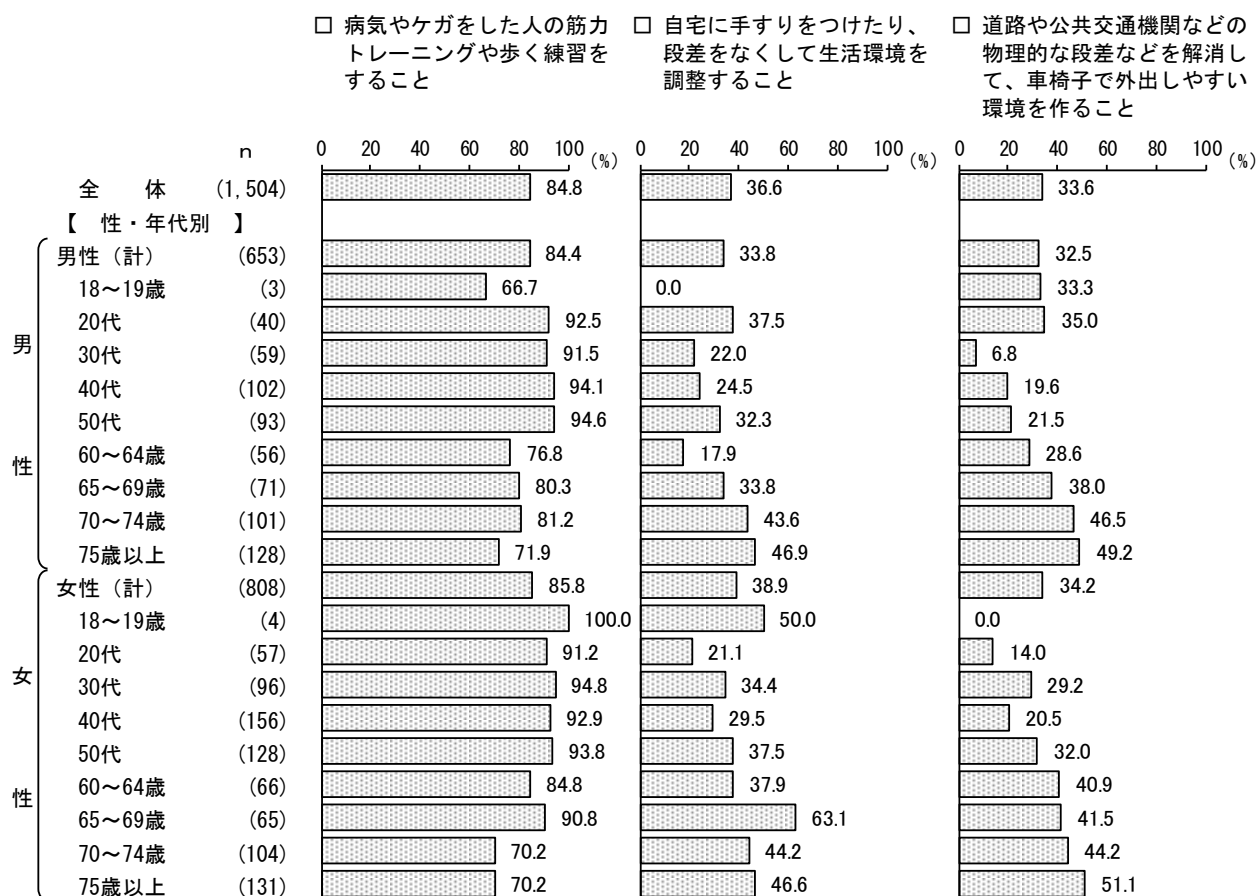
「自宅に手すりをつけたり、段差をなくして生活環境を調整すること」は、女性65～69歳（63.1%）が６割を超え、男性75歳以上（46.9%）が４割台半ばで高くなっている。

「道路や公共交通機関などの物理的な段差などを解消して、車椅子で外出しやすい環境を作ること」は、女性75歳以上（51.1%）が５割を超え、男性75歳以上（49.2%）が約５割、男性70～74歳（46.5%）、女性70～74歳（44.2%）が４割台半ばで高くなっている。

「色々な人たちが、地域に暮らしていることを理解し、誰もが暮らしやすい地域をつくること」は、女性75歳以上（44.3%）が4割台半ば、女性65～69歳（41.5%）が4割を超え、男性70～74歳（40.6%）が4割、女性70～74歳（37.5%）が約4割で高くなっている。（図表8－2）

＜図表8－2＞「リハビリテーション」の言葉のイメージ（複数回答）／地域別、性・年代別





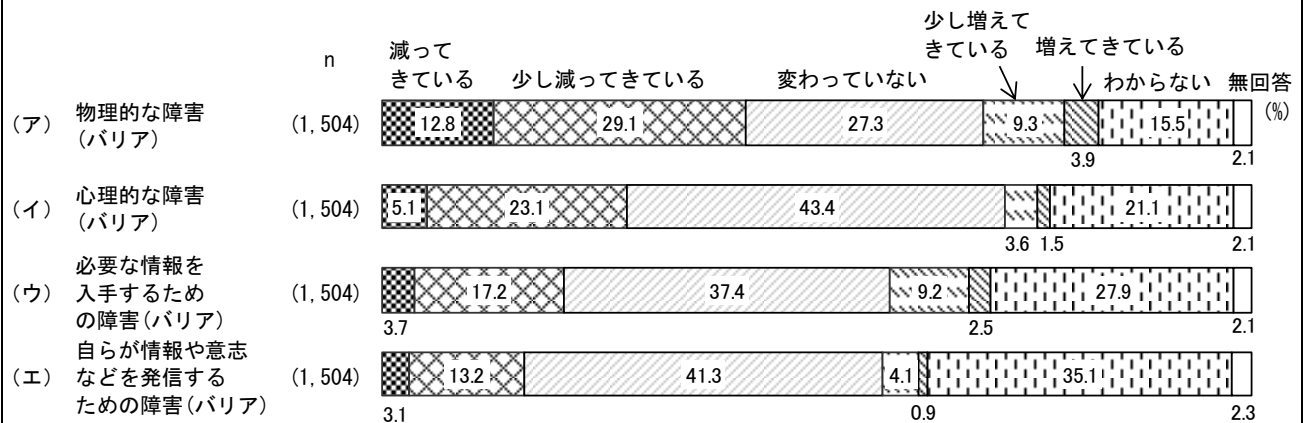
## （２）「社会的な障害（バリア）」の増減

◇『減ってきている（計）』が最も高いのは「物理的な障害（バリア）」で４割を超える

問32 あなたが暮らす地域では、障害のある人や高齢者が自らの「したい暮らし」を実現するために、３年前より以下のような「社会的な障害（バリア）」※が減ってきていると思いますか。それとも増えてきていると思いますか。（○はそれぞれ１つずつ）

※ 「社会的な障害（バリア）」とは、人が生活の中で不便を感じることで、様々な活動をするときに障壁となるものを指します。

＜図表８－３＞「社会的な障害（バリア）」の増減



「社会的な障害（バリア）」の４項目について、それぞれの増減を聞いたところ、「減ってきている」と「少し減ってきている」を合わせた『減ってきている（計）』が最も高いのは、「(ア) 物理的な障害（バリア）」（41.9％）が４割を超え、以下、「(イ) 心理的な障害（バリア）」（28.2％）、「(ウ) 必要な情報を入手するための障害（バリア）」（20.9％）が続く。

一方、「少し増えてきている」と「増えてきている」を合わせた『増えてきている（計）』が最も高いのは、「(ア) 物理的な障害（バリア）」（13.2％）が１割を超え、以下、「(ウ) 必要な情報を入手するための障害（バリア）」（11.6％）、「(イ) 心理的な障害（バリア）」（5.1％）が続く。

（図表８－３）

### 【地域別】

地域別にみると、「(ア) 物理的な障害（バリア）」について『減ってきている（計）』は“葛南地域”（48.6％）が約５割で高くなっている。

「(イ) 心理的な障害（バリア）」について地域別で大きな傾向の違いはみられない。

「(ウ) 必要な情報を入手するための障害（バリア）」について地域別で大きな傾向の違いはみられない。

「(エ) 自らが情報や意志などを発信するための障害（バリア）」について『増えてきている（計）』は“君津地域”（12.2％）が１割を超えて高くなっている。（図表８－４）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 物理的な障害（バリア）」について大きな傾向の違いはみられない。

「(イ) 心理的な障害（バリア）」について性・年代別で大きな傾向の違いはみられない。

「(ウ) 必要な情報を入手するための障害（バリア）」について『減ってきている（計）』は、男性20代（45.0%）が4割台半ば、男性30代（33.9%）が3割台半ばで高くなっている。

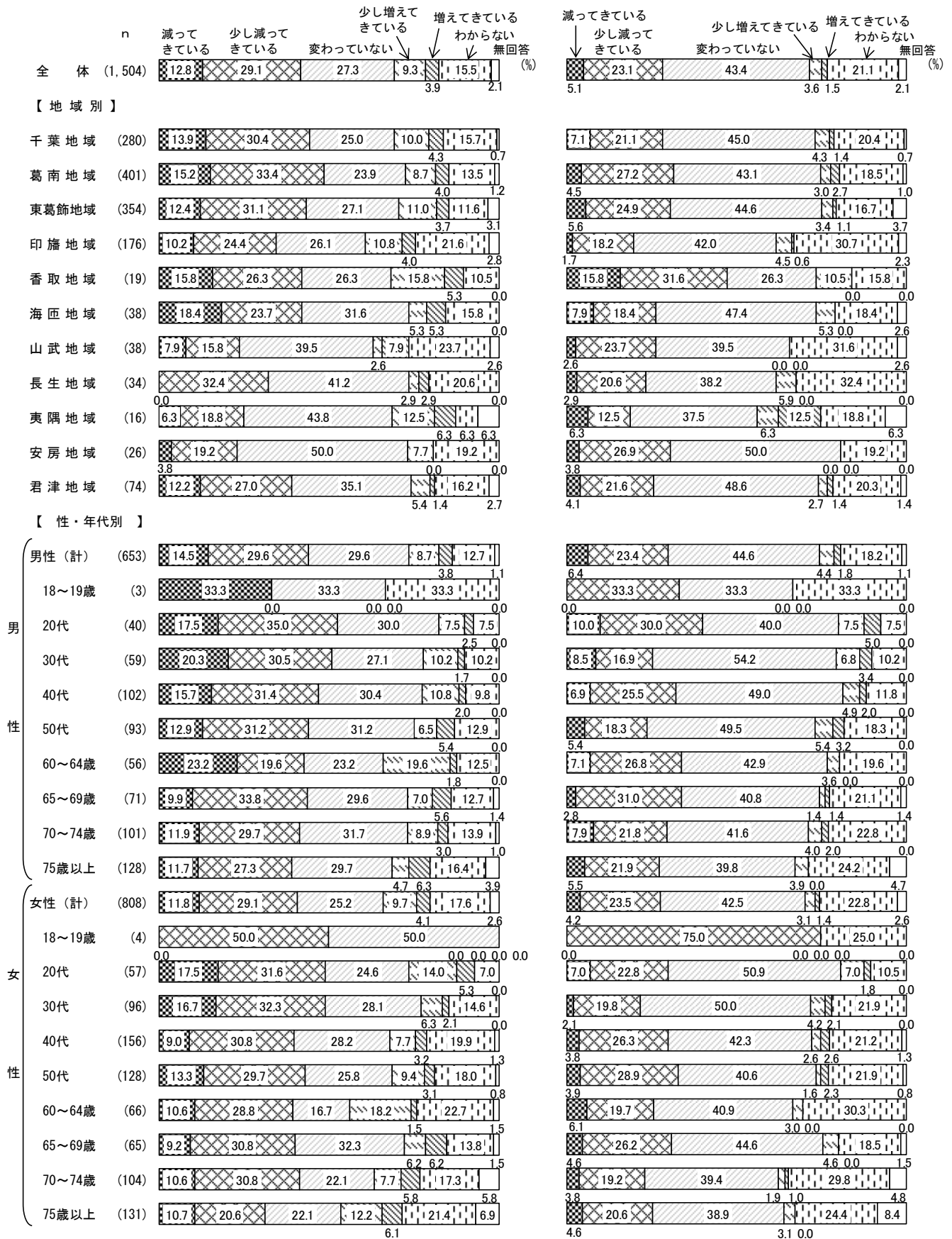
一方、「(ウ) 必要な情報を入手するための障害（バリア）」について『増えてきている（計）』は、女性20代（29.8%）が約3割、女性60～64歳（19.7%）が約2割で高くなっている。

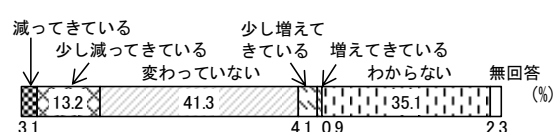
「(エ) 自らが情報や意志などを発信するための障害（バリア）」について『減ってきている（計）』は、男性20代（45.0%）は4割台半ば、男性30代（30.5%）が3割、女性20代（26.3%）が2割台半ばで高くなっている。（図表8－4）

&lt;図表8-4&gt;「社会的な障害（バリア）」の増減／地域別、性・年代別

(ア) 物理的な障害（バリア）

(イ) 心理的な障害（バリア）





千葉地域 (280) 3.9 20.0 37.9 6.4 1.8 29.3 0.7

葛南地域 (401) 3.7 17.2 40.1 8.5 2.0 27.4 1.0

東葛飾地域 (354) 3.4 18.6 35.0 11.0 2.8 25.7 3.4

印旛地域 (176) 2.8 17.0 30.7 13.1 1.1 32.4 2.8

香取地域 (19) 5.3 15.8 42.1 15.8 10.5 10.5 0.0

海匝地域 (38) 2.6 15.8 34.2 7.9 5.3 31.6 2.6

山武地域 (38) 0.0 10.5 42.1 10.5 2.6 31.6 2.6

長生地域 (34) 5.9 14.7 38.2 2.9 2.9 35.3 0.0

夷隅地域 (16) 0.0 6.3 31.3 12.5 43.8 6.3 0.0

安房地域 (26) 0.0 19.2 61.5 3.8 0.0 15.4 0.0

君津地域 (74) 8.1 17.6 36.5 10.8 4.1 21.6 1.4

Figure 1 displays 10 horizontal bar charts arranged in a 10x3 grid, showing the distribution of 1000 simulated values for three parameters:  $\alpha$ ,  $\beta$ , and  $\gamma$ . The rows correspond to the parameters, and the columns correspond to different values of  $\alpha$  (0.0, 0.5, 1.0). The bars are color-coded: blue for  $\alpha=0.0$ , green for  $\alpha=0.5$ , and red for  $\alpha=1.0$ . The x-axis for each chart ranges from 0.0 to 1.0. The y-axis labels are 0.0, 0.5, and 1.0. The distribution of values is shown as a series of small vertical bars within the main bar, with the mean value labeled at the top of each bar.

Figure 1 displays 20 horizontal bar charts, each representing the distribution of the number of children per family for a specific country. The y-axis lists the countries, and the top x-axis shows the number of children (0.0 to 9.0). The bars are divided into segments with different patterns: checkered, diagonal lines, horizontal lines, and dots. The segments are labeled with their respective values.

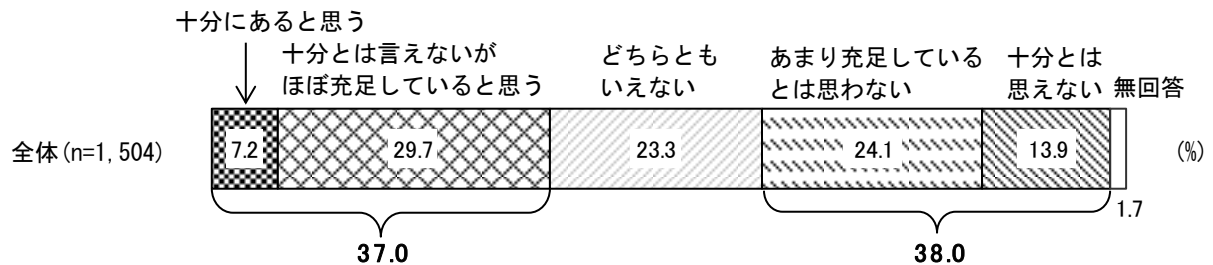
Country	0.0	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0
Germany	4.3	13.8	33.3	44.6	66.7	3.5	0.8	31.9	1.2	0.0
France	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Italy	10.0	35.0	40.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Spain	6.8	23.7	40.7	3.4	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Greece	3.9	12.7	48.0	4.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Turkey	4.3	9.7	50.5	3.2	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Poland	4.3	19.6	39.3	3.6	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Czech Republic	5.4	12.7	38.0	3.6	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Slovakia	2.8	10.9	44.6	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Hungary	5.9	7.0	46.9	4.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Austria	0.8	12.7	38.9	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Switzerland	2.4	25.0	25.0	4.7	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Netherlands	0.0	7.0	19.3	38.6	10.5	24.6	0.0	0.0	0.0	0.0
Belgium	2.1	17.7	44.8	7.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Luxembourg	1.3	15.4	41.0	3.2	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Ireland	3.9	14.1	39.8	3.1	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
United Kingdom	1.5	15.2	37.9	4.5	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Ireland	0.0	7.7	47.7	6.2	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
United Kingdom	1.9	6.7	42.3	6.2	3.1	42.3	0.0	0.0	0.0	0.0
Ireland	2.3	7.6	25.2	1.0	0.0	49.6	5.8	8.4	0.0	0.0

### （３）ケガや病気の際にリハビリを受けられる医療機関の充足度

◇『充足している（計）』が約４割

問33 あなたや家族がケガをしたり、病気になった時にリハビリを受けられる医療機関や施設が、あなたの暮らす地域では十分にあると思いますか。（○は１つ）

＜図表８－５＞ケガや病気の際にリハビリを受けられる医療機関の充足度



ケガや病気の際にリハビリを受けられる医療機関の充足度を聞いたところ、「十分にあると思う」（7.2%）と「十分とは言えないがほぼ充足していると思う」（29.7%）を合わせた『充足している（計）』（37.0%）が約４割となっている。

一方、「あまり充足しているとは思わない」（24.1%）と「十分とは思えない」（13.9%）を合わせた『充足していない（計）』（38.0%）は約４割となっている。（図表８－５）

#### 【地域別】

地域別にみると、『充足している（計）』は“葛南地域”（44.9%）が４割台半ばで高くなっている。一方、『充足していない（計）』は“長生地域”（67.6%）が約７割で高くなっている。

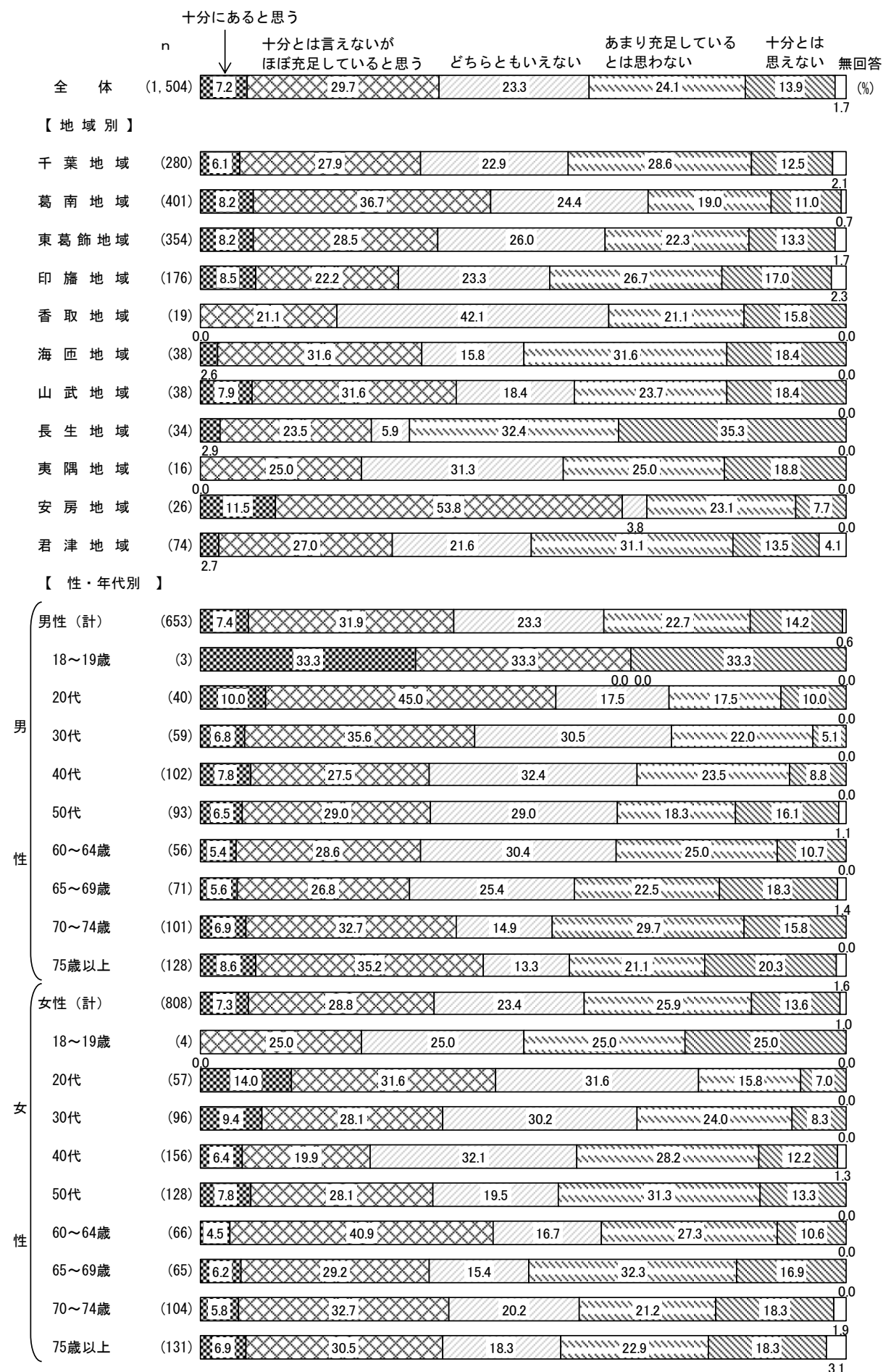
（図表８－６）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『充足している（計）』は、男性20代（55.0%）が５割台半ばで高くなっている。（図表８－６）



&lt;図表 8－6&gt;ケガや病気の際にリハビリを受けられる医療機関の充足度／地域別、性・年代別

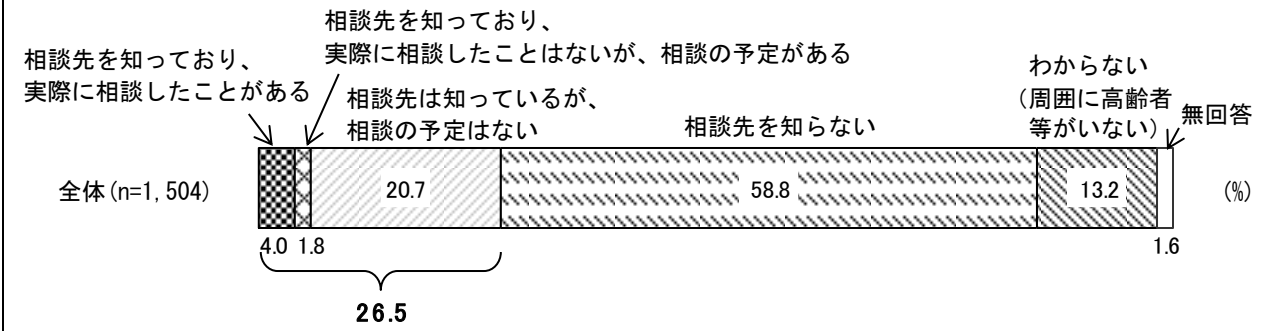


#### （４）障害のある人や高齢者の相談場所、相談の有無

◇『相談先を知っている（計）』が２割台半ば

問34 障害のある人や高齢者が、災害時に備えて事前に不安や困りごとを相談できる場所を知っていますか、また、実際に相談したことはありますか。（○は１つ）

＜図表８－７＞障害のある人や高齢者の相談場所、相談の有無



障害のある人や高齢者の相談場所、相談の有無を聞いたところ、「相談先を知っており、実際に相談したことがある」（4.0%）、「相談先を知っており、実際に相談したことはないが、相談の予定がある」（1.8%）、「相談先は知っているが、相談の予定はない」（20.7%）の３つを合わせた『相談先を知っている（計）』（26.5%）が２割台半ばとなっている。（図表８－７）

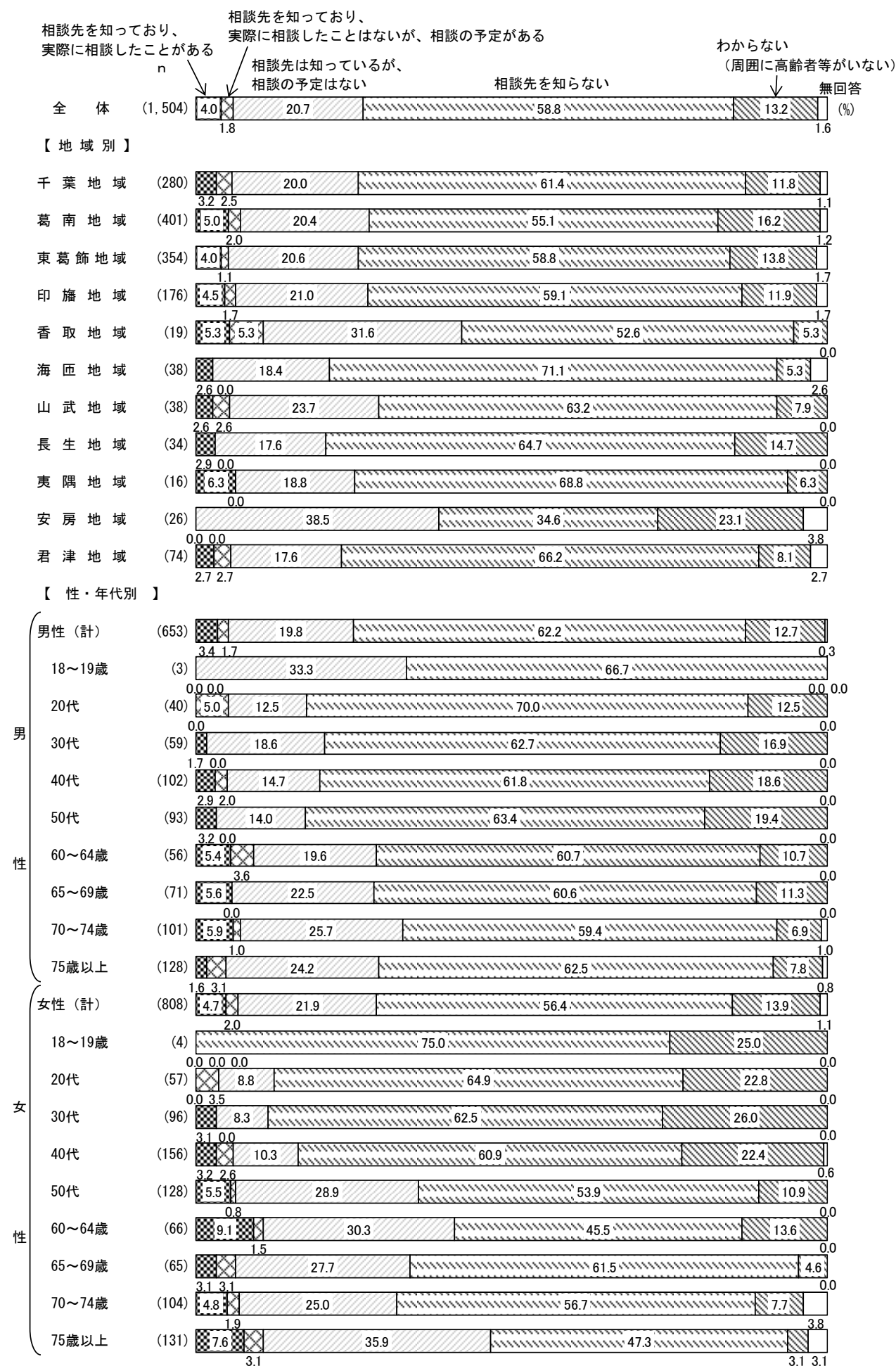
##### 【地域別】

地域別で大きな傾向の違いはみられない。（図表８－８）

##### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『相談先を知っている（計）』は、女性75歳以上（46.6%）が４割台半ば、女性60～64歳（40.9%）が４割、女性50代（35.2%）が３割台半ばで高くなっている。（図表８－８）

&lt;図表 8-8&gt;障害のある人や高齢者の相談場所、相談の有無／地域別、性・年代別



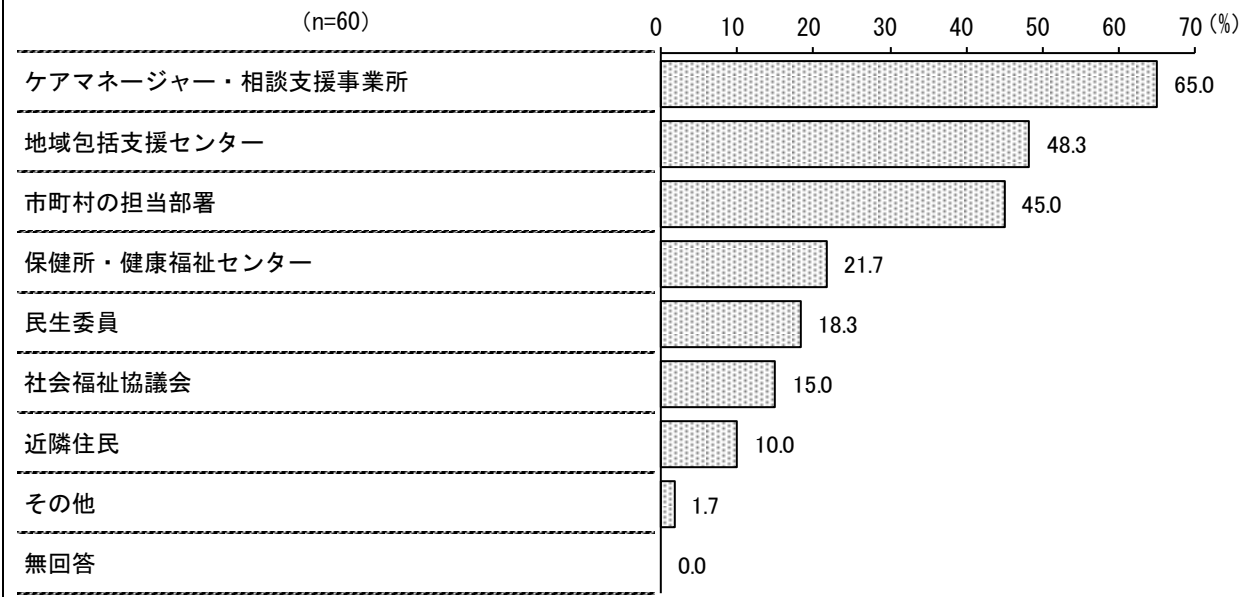
## （４－１）災害時の不安や困りごとの相談先

◇「ケアマネジャー・相談支援事業所」が６割台半ば

（問34で「相談先を知っており、実際に相談したことがある」とお答えの方に）

問34－１ あなたが「災害時についての不安や困りごと」を相談したことがある場所はどちらですか。（〇はいくつでも）

&lt;図表 8－9&gt;災害時の不安や困りごとの相談先（複数回答）

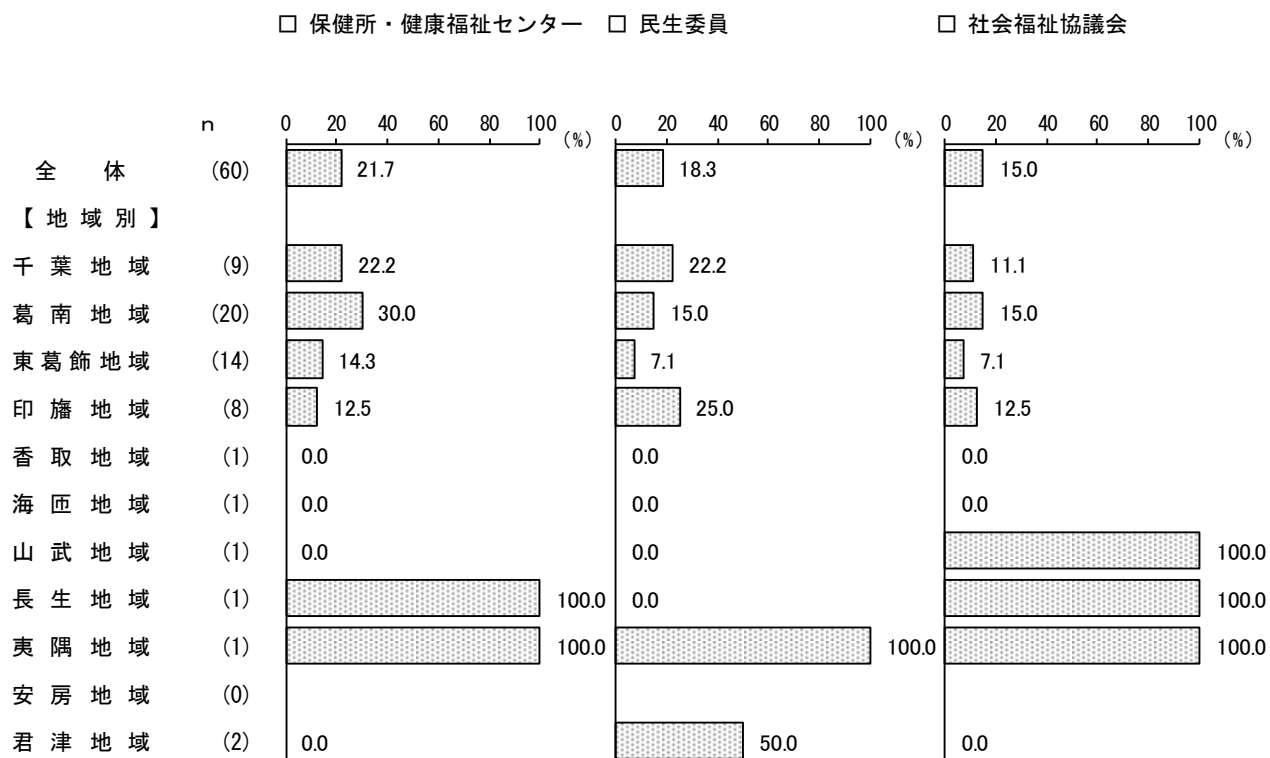
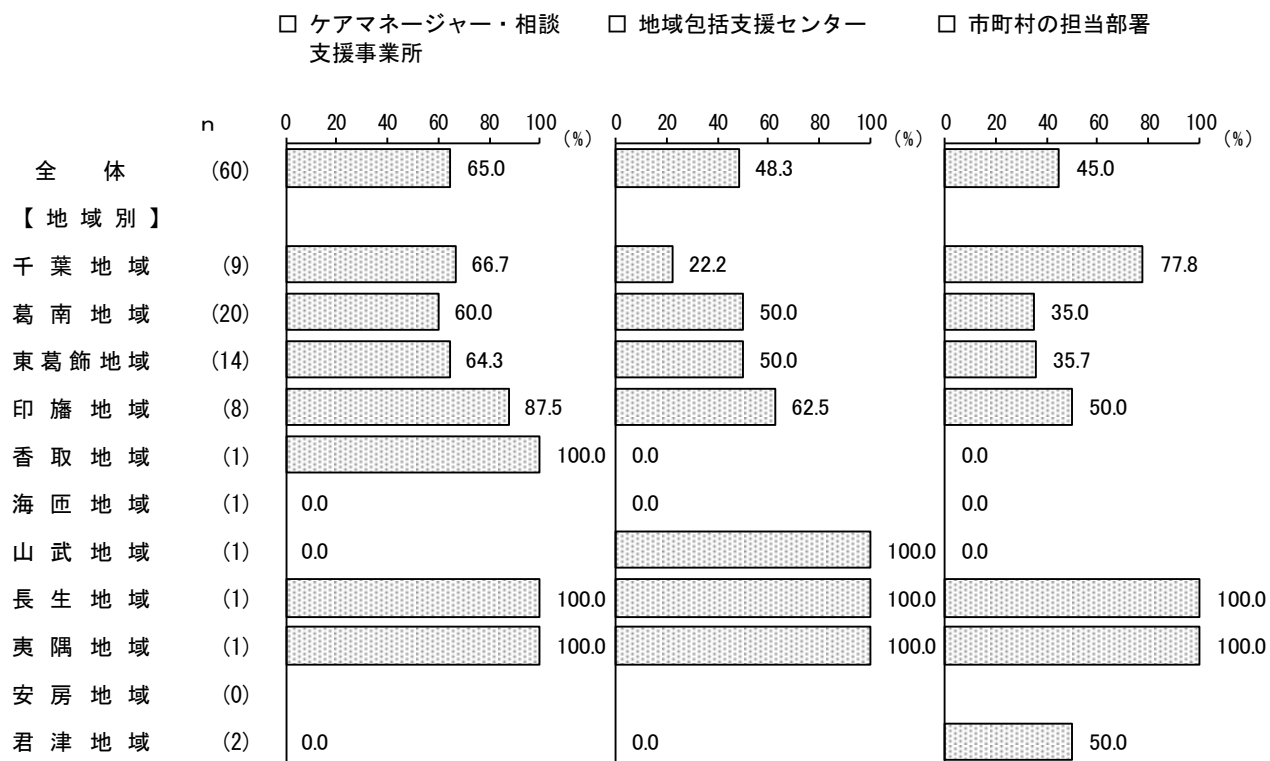


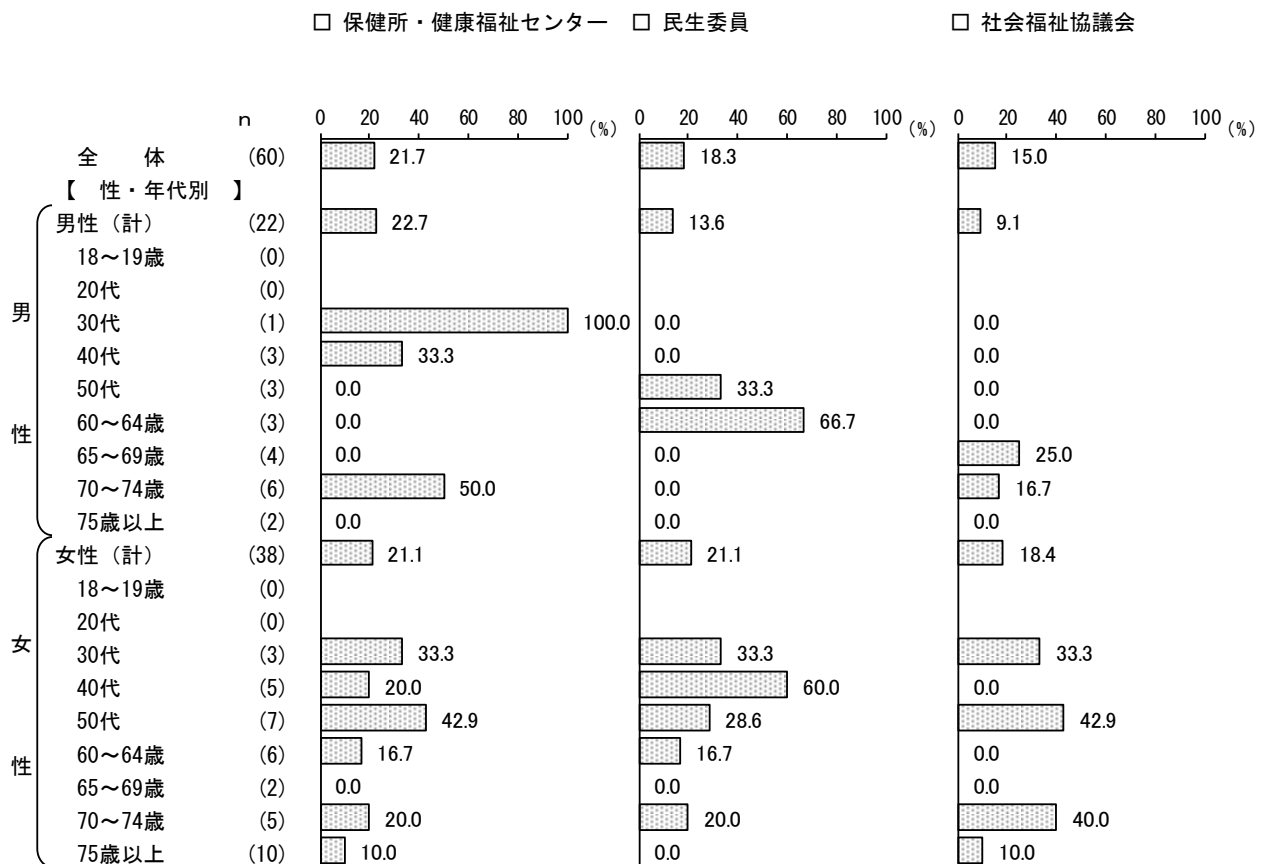
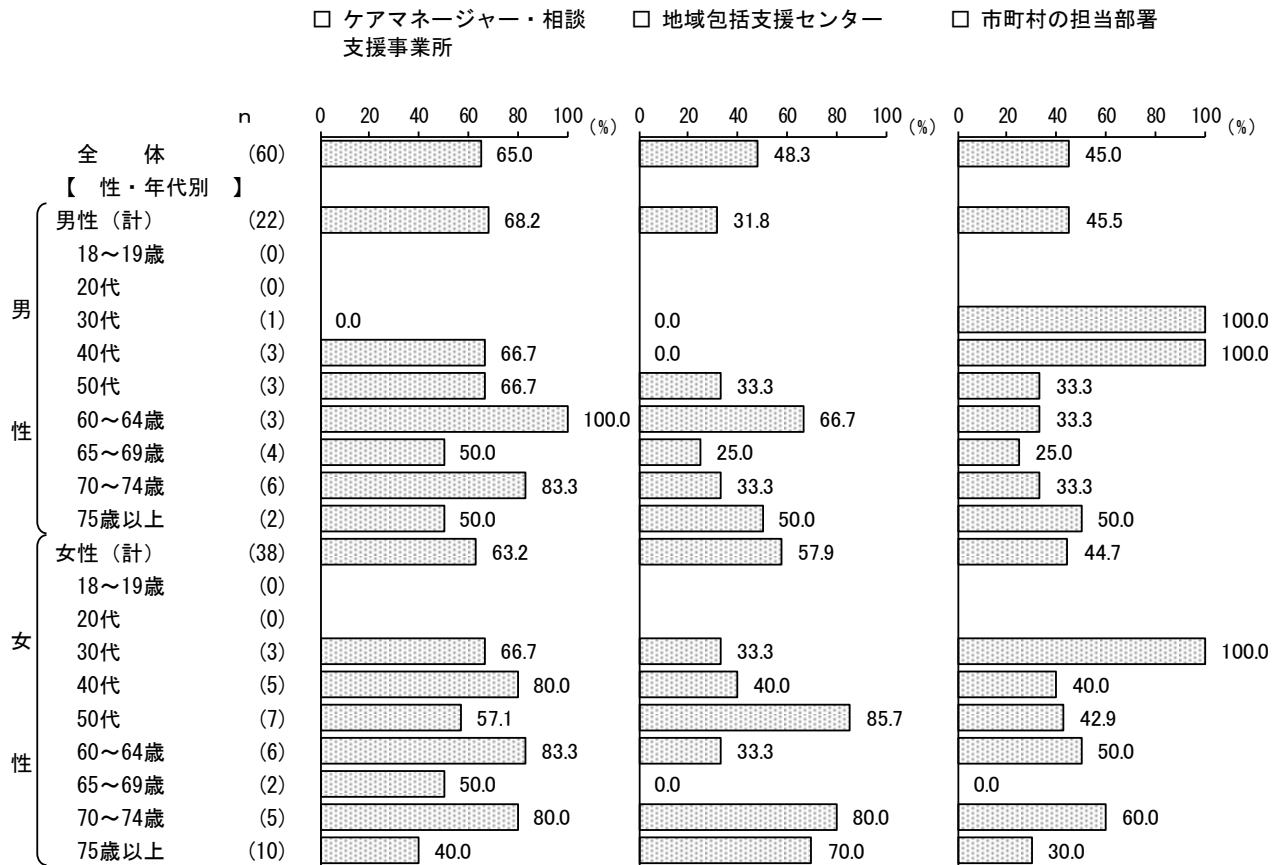
災害時の不安や困りごとの相談先を聞いたところ、「ケアマネジャー・相談支援事業所」(65.0%)が６割台半ばで最も高く、以下、「地域包括支援センター」(48.3%)、「市町村の担当部署」(45.0%)、「保健所・健康福祉センター」(21.7%)が続く。(図表 8－9)

※サンプル数が少ないため、【地域別】及び【性・年代別】における属性の分析は触れていない。  
(9ページ「報告書の見方(5)」を参照)(図表 8－10)

[参考] <図表 8-10> 災害時の不安や困りごとの相談先（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位 6 項目）





このほかにも、「地域リハビリテーションについて」や問31～問34について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、87人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「地域リハビリテーションについて」の自由回答（抜粋）

- 必要な情報にたどり着くことが健常者にとっても困難になっていると感じるくらい制度が複雑で、凄い数の申請作業をしなくてはいけない。家族のことでやっているが、自分の時は誰がやってくれるのか。無理だなあと思う。  
(男性、60～64歳、東葛飾地域)
  
- 地域リハビリテーションという言葉は初めて知った。高齢者なら尚更知らない人が多いと思う。まずは全世代向けの情報発信の仕方を見直してほしい。  
(女性、40代、山武地域)
  
- 相談するには信頼が必要です。各相談場所／窓口がどのような人員が配置され、どのような相談／改善実績があるかを発信していただければありがたいと思います。  
(男性、65～69歳、葛南地域)
  
- 情報が少ないように感じるので、ポスターや情報紙など2次元コードで知れるようにして頂きたい。社会的な障害（バリア）のどこがどのように変わったなど、減っていく姿を目で確認できると、意識が変わっていくと思う。  
(女性、40代、千葉地域)
  
- 高齢化が進んでいるので、お年寄りの方が気軽にできるリハビリ、相談場所を増やしてほしい。又、あるのであれば広報等に掲載して頂ければ、高齢者の方々に伝わると思います。  
(女性、50代、印旛地域)
  
- 近年都市部では都市開発によりバリアフリーは増えて行く一方、過疎化した地域で暮らす方々の環境整備の落差が激しいと思う。  
(女性、20代、君津地域)
  
- リハビリが必要だと考えた時に、とりあえずの相談窓口を1本にして周知させ、その窓口からケース毎に振り分けるという仕組みのほうが、利用者には分かりやすいのではないのでしょうか？  
(男性、60～64歳、印旛地域)
  
- よくわかりませんが、今の世の中は健康な人の立場で生活するようになっていると思うので、障害をもっている人と共に行動して、改善を要する所など障害者の目線で関係者が理解して欲しい。  
(女性、70～74歳、葛南地域)
  
- バリアフリー化などの設備改善はどうしても時間や予算がかかること、利用者が極めて少ない等で改善が難しく対応する側（事業者）が困難な場合があることを広く周知してほしい。  
(男性、40代、葛南地域)
  
- 『地域リハビリテーション』という言葉は内容が伝わりにくいと思う。  
(男性、65～69歳、東葛飾地域)